

# 宇治大納言物語 上 (天明六年版)

楣山文学園大学デジタルライブラリー

楣山文学園大学図書館



嘯山三宅先生校正

文部大納言抄

全部  
一冊

けきの。ご。う。う。治。機。と。日。ひ。な。う。の。  
事。し。之。之。考。保。よ。ち。り。く。次。ま。ハ。書。は。れ。も。う。  
古。將。よ。く。の。歌。連。う。考。ほ。う。同。く。  
む。づ。き。も。ぐ。る。や。

平安書林

華箋堂梓



菟通大納言抄序

よ。づ。の。こ。そ。と。そ。そ。と。あ。づ。け。よ。た。よ。と。と。と。  
わ。う。じ。く。の。あ。う。う。ゆ。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。  
う。  
う。  
う。  
う。  
う。  
う。  
う。  
う。

五

卷之三

卷

至  
大  
元  
年  
丙  
子  
春  
之  
月  
清  
陰  
人  
書

くとひりみ。かのけよみ。うせきがはありが  
なきからなりか。や。所縁がく。やく。れど  
や。をもせりべ。なむ心あくとゆけを  
り。ら。あがへりて。し。ゆきをせりび。うゆ  
ば。あるみ。い。かくさめをもせり。  
そきみマヒ。と。やまくこのかきりく  
じ。と。うび。ゆきをり。で。かひだ。つまづ  
こみかく。や。をり。れ。れ。と。うらむら  
らひ。れ。と。や。じま。と。うけ。わ  
は。と。お。洞。を。の。こ。を。う。と。い。う  
あ。と。お。所。の。か。と。た。う。紙。を。

月既て院からくして御酒ありたまへては後  
じぬ。乃ちぬまへてあまくわらひに移り  
て、せうべ。汝は木丁のうちか、御殿のえど  
抱りて姫をせうべ。汝まへが、女房ニシテ  
ひきれど、れつしませば、ひきへめきり。やまと  
人くわきこゆへききとぞきるべ。なまく。  
えもす。ぬくだりとおてゆきる。おとせり  
ゆふ。向きぬかせ、せうべ。すてまくまく。汝  
鷺の羽にて、山翁とあひて、ねりけよニシテ  
あまくわらひだ。まかだりみや。されどり

やうやうのへゆれば、うりては寝むがよし。

さをうめり。まのたらとやど見きくとす。い  
たひの。あ。またとくじてくれり。まく你ハ。お<sup>レ</sup>  
今<sup>レ</sup>うでけ。彼<sup>レ</sup>のなまんゆりと。なま  
ゆきとかがり。いつかくられり。まく。も  
ぐくて秋かと感ねれハ。月のをとばきうせ詠<sup>メ</sup>  
セ

うをうひね。又のおとづはのことをく。まへたび  
をみうをうひみきり。法堂は法女房手の  
きかたりて。さへやうべれり。さり。恩裏  
の左大臣あとじる事。塔川大臣がえとすり  
今ハじう。和泉守教がれにて。師のえがなり  
のきよ。じくもせせかうざりきり。  
其のまゆ。こころへの來りきるふ。法文をす。  
うらまひあア

まきり。だりて。ゆかぬをめ  
もをまつて。まつせきれ。じく成めきりと  
て。心づく。うて。感ぜたまうり。女と月

ばなめて。さへやかうつきり。せんざの病きく  
ときく。うか。人のまきのまくまくとのよ  
もと。かく。よめで。へ。心痛り。心丈  
きく。心つづのとく。年めきれ。とく。治りて。  
扇はね。おきて。うり。こし。ハ。ゆり。かん。わと  
ねふと。よそつまれ。なづく。もあ。や。一。かく  
ききごとの。ゆく。ひも

心みゑとゆあへ。度まだ。かの月。おび。ま  
き。うき。あ。わ。か。や。と。て。さ。の。ぎ。り  
て。ま。や。に。か。ひ。と。く。お。そ。ま。く。  
わ。じ。か。く。ま。お。の。月。を。と。ま。く。お。れ。を。お。ゆ。

ありつひ文無れ

我山舟はびと老つば機とやくもせく来  
何うかてとれまつせらる。心うくまゐと。  
きとのおととれまつせらる。心うくまゐと。日  
記か書く。物つは。がくうか心うとくま  
やくみまきど。後おはうへ道とくまをせら  
て。ひくすみじ或アハ書く。せとくま  
とくま。ゆりやくとくま。ゆりやくとくま。  
小男のゆりやくとくま。ゆりやくとくま。  
どれがゆりやくとくま。心うぐりとくま。

だりやくとくま。よかとくま。よかとくま

とくま。とくま。とくま。とくま。とくま  
和共見り。ハ。とくま。とくま。とくま。とくま  
てゆき。は。麦布。称か。まつりて。山。山。山。山  
の。山。山。山。

わざとくま。とくま。とくま。とくま。とくま  
時ふ男の。とくま。とくま。とくま。とくま  
奥山。とくま。とくま。とくま。とくま。とくま  
とくま。とくま。とくま。とくま。とくま。とくま  
とくま。とくま。とくま。とくま。とくま。とくま

せかされば。必ずばにて。或ひ  
とも。誰もて。誰もと。誰も。不思議あり。此  
事。書家のひのいの口傳。

くわきり。かわきよ。かくも。かく。かく。胸  
いたし。かわきのせん。と。よく。ゆみ。金  
さく。がくも。と。めぐら。うき。り。身を。底の  
也房。中納言。宣教文。と。せよ。

まき。せき。が。身を。底の。くわき。と。あく。  
まく。まく。

かく。身を。底の。くわき。と。がく。くわき。

中納言。あく。うき。何事。と。す。まく。  
でく。だく。と。かく。心。あが。と。かく。まく。  
うき。かの。えく。き。り。く。と。く。まく。かく。  
まく。か。や。ひ。か。ど。か。め。う。ひ。く。か。ど。か。  
が。う。と。事。み。ひ。う。と。た。え。お。て。後。が。く。う  
まく。う。と。か。う。と。か。う。と。か。う。  
て。心。あ。と。わ。ぬ。が。く。う。と。か。う。  
え。洞。の。い。と。う。か。う。と。か。う。と。か。う。  
あ。く。え。と。か。う。せ。の。あ。く。え。と。か。う。  
高。く。は。多。と。か。う。ぬ。や。聲。の。う。と。か。う。

をあづく。かげにやがたとく。中納言ゆふと  
きども。じげをくねへり。もーきく。ひあせ  
てぬと。せぐぎり。もうへり。あけみて  
おはなく。ひとがゆめり。けいと。まねかく。おはん  
をばく。ひきと。山のひづき。まねかく。立す。おはん  
具申地言葉のこし。ひづき。ひじに。つとそり  
せんと。やすふ。たうと。圓教義は序。せ代。ゆう  
きらう。それより。ひくと。つとそり。ち  
こへと。れりゆき

法堂の中ひめ。三重院の法時庵を慶  
とアシタウ女房。お院のゆほみのまきの

せんと。はねはね。はねはね。れじ。の。巻  
いちう。せのん。びみあきのせんと。ハ。中  
はのん。かく。じ。い。まのん。ハ。の。く  
ぐ。て。よ。く。か。め。り

いはじ。黒式船。上。東門院。お。奇。よ。よ  
の。よ。の。よ。の。よ。の。よ。の。よ。の。よ。  
よ。の。よ。の。よ。の。よ。の。よ。の。よ。の。よ。  
よ。の。よ。の。よ。の。よ。の。よ。の。よ。の。よ。  
よ。の。よ。の。よ。の。よ。の。よ。の。よ。の。よ。  
よ。の。よ。の。よ。の。よ。の。よ。の。よ。の。よ。

されハ。後代ハ。後も。まづ。かく。りき。ばよく  
かく。せよ。かく。て。や。い。の。み。て。は。ま。ね  
候。勢。大。浦。ま。り。ぬ。され。と。寄。ま。の。う。か  
き。ふ。あ。ハ。ま。う。と。て。あ。を。う。あ。ま。う。す。  
ト。一。度。八。重。櫛。ば。折。て。ま。つ。ば。は。ま.  
か。そ。り。つ。ま。う。と。寄。あ。と。よ。き。ア。式。船  
と。あ。ハ。大。浦。ふ。ゆ。と。り。こ。ね。う。と。て。ゆ。う.  
き。れ。ハ。そ。り。つ。と。き。て。ま。う。と。ひ。ア。船。を。見  
く。く。お。せ。ら。く。清。く。ふ。あ。う。く  
い。か。の。あ。れ。教。人。全。き。く。ま。た。有。い。か。ふ  
う。り。つ。ま。う。や。と。あ。の。お。ウ。サ。う。れ。つ。船。と。あ

う。浦。う。か。つ。の。キ。じ。と。浦。う。か。ん。と。人。を  
さ。よ。あ。と。れ。が。め。と。か。因。と。交。て。ふ  
る。よ。や。と。又。の。大。御。言。と。考。人の。事。あ。め。成。り  
ま。だ。え。い。く。く。登。ぞ。と。き。人の。事。あ。め。成。り  
き。り。あ。ひ。も。じ。め。と。り。き。う。は。石。ひ。う。こ  
じ。正。て。と。よ。せ。ざ。り。き。れ。ハ。は。ク。リ。き。ち  
く。る。あ。く。か。く。浦。う。か。ん。と。人。を。全。き。く。  
こ。と。く。か。く。浦。う。か。ん。と。人。を。寄。ま。の。う。か  
き。え。ま。う。り。浦。う。か。ん。と。人。を。全。き。く。  
浦。う。か。ん。と。人。を。寄。ま。の。う。か。き。え。ま。う。り。  
浦。う。か。ん。と。人。を。寄。ま。の。う。か。き。え。ま。う。り。  
浦。う。か。ん。と。人。を。寄。ま。の。う。か。き。え。ま。う。り。

卷之三

三

ありやまきり。流れてきて、さざれ  
ハ流りく

君が山とくらべのよひのじまに藤  
森へとまつ。まのががらりとおこし  
くらが藤のまきとておんみがよもや  
いはじと大林。たせんして、林親ばめ  
て。お隣の山事あとおやせきしきつ  
ゆふ。おみきめしてがはげぬとて。  
まきをねぐる

さくさくおやむと新のまきばらせがうりんれ  
おぞ。おもてのまきばらせがうりんれ

祖父父孫孫親

三代をまかねまくひとてお  
かみめぐりくいきこのうりきれ。お  
勝本浦がお祝事

いはじ。辛子流。流ぐ。だりておの  
みほくおて。おあいおき。袖あわせう  
そとひまびへ。あとくすてうりきひが。おと  
きにがたらうて。をくれあわせぬひき。門  
のひは。おまほをさせぬ。たゞはまわりを  
き。おまほ。ひねとひす。だり。おまほ  
ひねくりふ心ふ。おと。おられきれ。ばば義敏  
とお

太極

右のたびゆの度にかねばくらむとんとく  
まがくわく。まくべ成れきとく

いはじる。法門は勅言。法仗を。大門を  
法門を。さきめり。まうり。が。わ心を  
きて。おうまく。とあれ。おまか。まく。ま  
まく。まく。たらの。おもや。おもや。まく。バ  
白を。まく。重に。白を。おれ。大門。まく。まく。まく  
いはじく。あく。そく。み。式歎の。まく。まく。まく  
まく。時。其女。あく。まく。男え。ば。ア  
月が。度。と。あけ。まく。まく。まく。ば。初。始。が。り  
き。か。意の。元。わく。ば。まく。まく。て。こ。まく。

ハナの経を。されば。まく。て。が。ま。の。神。ア。宣。代。は  
つて。山。宿。せ。す。房。き。こ。く。ま。

は。め。を。か。れ。ね。お。は。友。法。持。お。お。ま。れ。お。お。お。  
ま。じ。し。享。る。流。下。ア。と。不。達。あ。き。こ。ま  
し。して。没。す。す。ア。法。あり。て。往。く。く。帰  
せ。お。て。來。お。の。ま。と。お。の。お。こ。ば。の。く。く。  
て。り。ア。ト。セ。の。ひ。め。を。り。ま。が。の。く。く。わ。ち。  
こ。と。え。と。あ。た。ち。い。と。お。も。い。の。か。よ。に。あ  
く。く。く。く。く。く。う。す。り。勇。と。人。ば。う。が。終  
て。義。の。と。あ。れ。い。と。お。り。う。き。ば。是。う。義。  
だ。う。山。後。せ。と。あ。ど。い。ひ。わ。り。く。ふ。う。義

おんじとじはりやくばがりしき  
せよわんせみを感ひけなほの舞歌とこそ  
こわいきばくとくゑどりゆきされども  
きづゆきよとくの事ともうむらきり。是  
は活門歩歌。ソラウヰーあハセおひまれば  
そんぐのつかまつせて。京洛の風とありて

アモレセアリキニとモ  
アハヒ。近ノ久モアリタジトアガマテ  
アシカシカガ。モアカアリモ。アシカアリモ  
アハシカ。アシカアムトアシカガ。モアカア  
トアシカ。モアシカアシカアシカアシカア

を過ぐるまことに黒うしを殺さない手のまへ  
といひやうとけきだ。西へとせでよこあはす。  
女とふとまゆうのほんかあせまく  
いふはひく。うらめか。内言とく。夜の院の  
わからぬなり。唐門が豪傑をせよとて。  
ひの宮とゆすをくわそとて。房のすの。  
もと。てくにまくらりまくら。ひくらうちね  
きる。

や人の心の外に豈せか。未だ未だ  
今うくわりてぞうりすえざりまつ  
いはじ。お敵院かれおうじて。雲

深様がくわうりまわおとくがうをあとて  
家多かね

景深の夜もまだもう少しで明るくなる  
いじ。夜が暮れてから起き事ば、僕は  
ちかくといひまへん

石川小太郎

あはれがれがれ。數々とお守り下さい。づき相手で  
いまはじ。一乗院位りつを起ふ年。おんじ  
のさんじの家。ひぬとあそびぬ。ゆくゆくわる  
す。わくとき後ど人と連ね。ああよしのむ。

原のかのもの。衆人あがむがくけうり。居  
核政廢は給へて。いもひの心ゆ。ワ、一は、  
す。利害と作る御事もト。おひのやのゆく  
じら。あびくまく。安い。うけうせ。ゆき。よ  
て。をそそ。と。と。あはれと。ゆふ。あはれ  
あそびのうき。化つ。と。じ。と。あはれ。  
めでこを。おひて。をそそ。と。作らうれ。ば。  
おどれぬく。と。た。ゆれ。うかと。よき。ば。が  
めく。せ。おひ。ふぞ。ぬきて。が。づ。く。を。き。り  
い。よ。じ。村。との。そ。事。の。ゆ。は。き。れ。いた  
か。傳。く。り。き。ふ。を。伝。う。き。み。そ。と。矣。

樹のもばがくせりよ。月のくわにあ  
きゆ哥よ。いとハツベキ。其のの見人  
も皆もせぬひきれば。されどもくそり  
きれば。いとくめでよをほきり。奇かくし  
ハセのつひ。おふわひひといひがま  
こそおわきれか。同人。後ど人のま  
くさり。きくや。とくはすり網うちきれ。何  
とぞ。よそとおわきれか  
ウ内風は無ふ。こうわねが舞はりてゆ  
け。まのをたてそく。おばへらひ  
いよだじ。時のあれど。小門寺とす寺

みれり。まうはきて。まうの。をの處か人ひ  
おぼくわづうて。わざひくふはりきり  
薦あふと。きかふ。はせり。はせり。の。を  
とくみ。はじく。こと。いとめくきれ  
いよだじ。すみはかのかねと。ほん。ありくろ。大  
井ふ縁をも。うろ。唐門の作ら。縁を。花柱  
あくく成がば。沙流せんと。の。ま。ひきわざ。西  
屋並れて。おう。まく。まき。かね  
敷かれ。おと。まく。まき。かね  
じともはか。ある。つきて。が。まく。うそり。  
ひき。きり。お。忠。寺。を。うの。まく。み。て。見。人。か

うちきははの事。まつり心ち。まつりともおこ  
るる。おとく。かくしてまつり約つて。換  
あらゆるかくまで約つて。あるそぞうり又  
ありけん。よみやうへて。もうぐめ。二首  
うりありて。がわのきとくり  
くわくと。後やあると。おとく。今。良。と。く。す。  
うて。の。日。う。せ。み。き。り。あ。れ。あ。ま。事。れ。ぬ。  
いま。じ。う。着。の。ま。く。ま。せ。の。と。き。の。ふ  
て。ゆ。や。又。の。越。後。守。為。時。ゆ。と。も。あ。ひ。れ。は  
ま。く。下。ア。も。く。か。お。く。り。ゆ。く。ひ。き。う。ぐ  
お。ゆ。と。高。く。の。お。ま。あ。び。ね。ひ。夜。く。と。く。

うちきははの事。まつり心ち。まつりともおこ  
るる。おとく。かくしてまつり約つて。換  
あらゆるかくまで約つて。あるそぞうり又  
ありけん。よみやうへて。もうぐめ。二首  
うりありて。がわのきとくり  
くわくと。後やあると。おとく。今。良。と。く。す。  
うて。の。日。う。せ。み。き。り。あ。れ。あ。ま。事。れ。ぬ。  
いま。じ。う。着。の。ま。く。ま。せ。の。と。き。の。ふ  
て。ゆ。や。又。の。越。後。守。為。時。ゆ。と。も。あ。ひ。れ。は  
ま。く。下。ア。も。く。か。お。く。り。ゆ。く。ひ。き。う。ぐ  
お。ゆ。と。高。く。の。お。ま。あ。び。ね。ひ。夜。く。と。く。

はきて。あひかへ心地よからず。きれば。傷  
サゲタツミサギ。じ哥。おもろりの。ふ文字  
は。ゑわざりやうと。さが。恐く。よそ。  
ねやど。はゆわむかか。くらせん  
くにじ。一乗院の落時。またひつと。  
まうし。へやうつて。ゑ。かぎ。だる  
どかり。まば。おのづめ。下が。まねとの  
きぬ。か。くすり。かく。ば。も。あり。も。これ  
ば。か。か。き。り。墨。へ。癡。痴。わ。う。り。も。ち  
もの。二。く。ま。う。れ。そ。り。べ。ひ。う。り。そ。て。そ。り。そ  
ま。う。り。あ。ん。そ。り。べ。わ。や。の。お。の。あ。ふ。り

ておひりうねのへきだ。じとすいがめみ二重  
はりゆとつよ。かたもあひどく。ひそり人  
ひそりへのはのうせやくことつば。  
かがひまよ。ほくとせあく座る。  
け處のことをかく。わのわをかく  
ぞ。後あかばとも。やうせあといへど。  
まことあきらめりや

の。おはな。おはな。おはな。おはな。おはな。おはな。おはな。おはな。おはな。

ちゆか煙草ははてて打手の身と我の人の見え  
いまはじ一魚籠の店。店主は漁翁の

言とてゆふふくうきよの侍ひま。後どすら櫛  
の花うりふね枝ば。先ばいど。いひひだ  
やうもんにきりとくへりきれ。其事半ば見  
て。正テ麻よ人ね柳くわたりまくば。後門を  
きくうりて。哥がくふくはんかまめり  
とあ。とくべくへりと作くまめり  
いすむじ。二月晦日か。母。夙。しらゆる  
らぬつ經か。公。徳。寧。翁。やねと。き。こ。す。う。ち。  
汝が絶言が。と。姉と。うちがみ。書て  
すう。ま。わ。ふ。こ。ら。う。と。それ  
とありま。美。左。手。毛。か。れ。か。れ。

ひきりて。いはく。かとんとありひよじ  
をさむと花やまうひてももまみ  
と。めぐらしくかまへりひよじ。がめぬきり。  
かくの寧相がく。一かあさひをかど。のすまひ  
きりとぞ

ひよじ。はあたの言。あ教へろりせし  
まうす。がとあきもの。あで。こばげちを  
あがみよ

おれわが身のわらふ。せそ。ばじ事多み難く。六  
ひよじ。みれあがめのは。うのうが  
林のみもの。みく。お。舟見る。中むらわらわら

アラキリ。がのまへくゆめく。アラキリ。  
のゆえどもがえで。あみをあらうる道のゆ  
う。あらうるきり。みた月まで。巻きうらう  
きりきれば。わきぬ房連。志まかり。めぐわせ  
きりきれり。一室候の階附。曾居のゆき方舟を  
ひまたむ。まづ御言。清水おどりきりきり。

まくらのつひよてありせむ  
ふゆきぬの邊の色  
えぬ九月。すとーかぎハ迎く成程り。つゆま  
のかねて。やうやくおよびて。それなれに大  
いとのゆえどくさへなり。がうざあの紙う

事なり

いはだじ一源中ねのづくとよ。在一家院の  
活用。二きぬ女房の心方かうらめの心  
いひきぬかうらめの心がば。いひき  
おもづれまち。ゆえの心かくめまつて女房と  
らゆめじて。ゆめあどて。時く心とのぬが  
とはかくまくまくねど。女房まくまくまくを  
経てゆべとえはきくわがまく。如言也

源氏ハ仰て。こぬるを事せば。じとあト  
はかセテ。ひきとど。あが院のまことの事  
きうか。じとめば。かくりきは。親  
あり。かうや。日のひの用。御。後。かど。いきう  
ば。やま。せぬ。べきか。も。せぬ。ゆ。ゆ  
そ。お。お。た。だ。や。お。お。お。お。お。お。  
お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。  
お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。  
お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。

お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。  
お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。  
お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。  
お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。  
お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。  
お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。  
お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。  
お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。お。

やうやくあがめていたる。まゝ  
漁火船の事。こゆくから傳り。まゝで  
漁火船の事。とアハづきともかく  
いはれど。まゝ院<sup>だく院</sup>と云ふ。纏<sup>そめ</sup>緑<sup>みどり</sup>入<sup>いり</sup>  
あまうや。漁火船云々。まつてはりまつて。まつてま  
とくのつむぎをねば  
とこ火船とが傳<sup>は</sup>れぬ事<sup>を</sup>。まつてまつて  
まつてまつて

